

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4472100488
法人名	医療法人 二豊会
事業所名	グループホーム向日葵
訪問調査日	平成21年 1月29日
評価確定日	平成21年 3月19日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成21年2月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4472100488
法人名	医療法人二豊会
事業所名	グループホーム向日葵
所在地 (電話番号)	国東市国見町竹田津3625番地 (電話)0978-84-0800

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(平成21年1月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建瓦葺き造り 1階部分
------	--------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800円		

(4)利用者の概要(平成21年1月8日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	国見病院 岐部歯科医院 ふじがき歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 グループホームが開設して6年になり、当初からの利用者は高齢となつてできないことが多くなっているが、その表情から利用者が毎日を穏やかに過ごしている様子がうかがえる。職員はみんな前向きで、明るくケアに取り組んでいる。
- 2 人事の入れ替わりで引き継ぎがまだ十分ではなく、出来ていない部分も目につく。しかし管理者と職員のやる気は十分でこれからのケアに期待できる。一方で、出来ていない部分については、利用者の利益のために運営者との話し合いを持つことが待たれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善点に対して、評価後の見直しが行われていない。全職員で課題点を話し合い、まず改善計画シートなどを作成して具体的な取り組みに着手してほしい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価には職員全員で話し合い、取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催が遅れ気味になっており、議題についても業務報告だけでサービスの質の向上などは話し合われていない。年間計画を立てるなどして、まず会議の開催を確保し、現在、グループホームで不十分な点などを議題にして推進会議の場を活用してほしい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪も多く、職員は家族との関係作りに熱心で家族も職員がよくやっていると感じているようである。しかし、昨年、グループホーム全部の職員が異動、もしくは離職ということがあり、利用者と家族に大きな不安を与えている。職員の交代は家族及び利用者にも多大な動揺を与える。今後は、運営に十分な配慮がほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者に地元民が多く、家族や知り合いの来訪も多くあって、普段の地域との交流の場は多い。しかし、緊急時や災害時の地域との連携ということについてはまだ十分な話し合いがなされておらず、今後の取り組みに期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に作った理念であるが、現在は理念の創設にかかわった職員が1人も在籍せず、理念についての話し合いや、見直しもない状態で前の理念をそのまま受け継いでいる。	○	現職員が全員で理念を見直し、地域密着型サービスとしてのグループホームのあり方を考え、どういうケアを提供するかを理念に盛り込むことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を復唱し、「笑顔」「親切」「安らぎ」の実践に向けてケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地元民が多く、老人会や知り合いの訪問者が多くあり、地域の行事にも可能な限り家族や職員と一緒に参加している。また、保育園児の来訪もあり地域との交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価には職員全員で取り組んでいるが、昨年の評価結果の改善についてはまだ取り組まれていない。	○	昨年の評価結果の改善については取り組む意欲はあるものの、昨年の評価後に職員が大幅に替わるという事態になり、まだ取り組まれていないので改善を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は常に遅れ気味になっている。また、議題についても業務報告だけで十分な話し合いは行われていない。	○	年間計画を立てるなどして、まず運営推進会議を定例化することを望みたい。その上でグループホーム側から議題を設定して、参加者の理解と支援を得られるよう、それをサービスの質の向上に生かせるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員が運営推進会議の固定メンバーになっており、それ以外にも連絡を取って相談や情報の提供をもらうなどの行き来がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「○月の向日葵での生活のようす」と題する行事表を毎月家族に送り、グループホームでの暮らしぶりを知らせている。個々人の金銭管理や物品の購入については連絡を取り合いながら行っており、健康状態の報告や受診の報告などもきちんとされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪が多いので、苦情、要望などを言ってもらえる関係作りができています。要望があった際には話し合いを行い改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の春に管理者を含む職員が全部入れ替わるという人事があり、利用者や家族に不安を与えている。	○	運営者は、まず職員との話し合いの場を持ち、グループホーム運営に大切な馴染みの関係をできるだけ壊さない人事への配慮を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月に1度の法人内研修には全員が参加しているものの、グループホームケアや地域密着型サービスについての外部研修には参加できないでいる。	○	職員の育成には、能力に応じた段階的な研修が必須であると思われる。事業所として、職員育成のための機会を確保できるような仕組みをつくっていくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣の杵築市のグループホームに見学に行き、相互に交流を深め、サービスの質の向上に向けた取り組みを始めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者とは事前に必ず面会し、本人や家族にグループホームを見学してもらって、安心してサービスが開始できるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に寄り添い、人生の先輩として教えてもらう場面を作りながら、お互いが支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で本人の思いや意向を把握することに努め、情報を職員で共有している。何かをする時には本人の意向を聞いてから行うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は管理者が行っており、全職員が計画作成に参加するまでに至っていない。	○	ケア会議の中で職員の意見交換やモニタリングを行い、利用者や家族の意見も取り入れた介護計画を作成するよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた介護計画の見直し、状態の変化に応じた見直しをするよう定められているが、昨年の人事異動に起因する介護現場の整備がまだ不十分のようであり、現状に即した介護計画の見直しができていない。	○	管理者は、介護計画の見直しを第一の課題として取り組んでいくと表明しているので期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人病院への受診の送迎や、入院中の洗濯物の世話などを行っているが、専門医への受診やその他の個人的な外出などは家族に頼っており、グループホームの支援は少ない。	○	職員の努力はみられるが、利用者と家族が必要な時に必要なサービスを受けられるよう、柔軟な対応ができるシステムを作ることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者とは入居の際に話し合っ、同法人の医療機関がかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるように支援している。歯科などは町内の歯科医と提携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階からドクターに状態を聞き、家族にも相談して話し合っているが、事業所としての方針はなく、また、重度化した時には同法人の病院に入院している。	○	重度化や終末期に向け、事業所としての方針を全職員で話し合い、家族とも話し合っ、できるだけ早い段階から備えることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護や個人の尊厳についての職員の意識が十分ではなく、やや気になる言葉づかいが見られる。	○	親しみの表現と対などな言葉づかいとは違うことを認識して、利用者を敬う気持ちが伝わってくる言葉づかいをしてほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人の希望によって食事時間に幅を持たせるなど、柔軟な対応を心掛けている。個人のペースを大切に、急がせないケアを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は同法人に職員が取りに行き、グループホーム内で調理している。調理を手伝える人が少なくなっているが、テーブル拭きやお盆拭きなど、できることを手伝ってもらい感謝の言葉を添えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に3回の入浴予定を組んでいるが、希望があれば他の日でも入浴できる。入浴を嫌う利用者には、無理強いをせず、楽しく入ってもらえるように言葉かけのタイミングを考えて誘うなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、職員と一緒に野菜を植え、草むしりをして、出来る仕事を楽しんでやっている。現役時代の技術を生かして包丁を研いでくれる人もおり、皮むきをしている。また、隣の保育園児との交流は利用者の大きな楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩やドライブに出かけている。法人内の行事にはできるだけ利用者を連れて参加している。保育園の運動会やお楽しみ会にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけないケアを実践しようとしており、やむを得ない場合のみ鍵をかけるように一応は決めている。しかし、外に出たがる人がおり、見守りできない場合には施錠している。施錠と開錠の基準があいまいで、ややもすると施錠のままになりやすい。	○	一部の職員は鍵をかける弊害を理解しておらず、工夫して開錠しておこうという取り組みや意欲に欠けている。昨年度はできていたケアなので、職員の研修をおこなって鍵をかけないケアの実践を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	海に近い場所にあるので、水害が考えられる場合には法人の病院に利用者を避難させている。また、台風の際は前もってわかるので、夜勤帯は二人体制にするなどの災害に対する備えがある。しかし、近隣に防災の援助などのお願いはしておらず、また備蓄についての備えはない。	○	海が間近で河口に位置しているため、近隣の災害時の協力体制は欠かせない。また食材を法人に取りに行くようになってからはグループホーム内に備蓄を置いてないので蓄えを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事摂取量は毎日チェックし、記録している。しかし、必要量についての知識が職員に十分ではなく水分の一日量が不足している。	○	食材と献立は法人の管理栄養士が立てており、栄養バランスについては問題がないと思われる。しかし、職員に栄養摂取や必要水分量の知識が少ないので、職員研修などの努力を期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のフローアには、畳を敷いた部分もあり、利用者は思い思いに好きな場所で過ごしている。季節がわかるものを飾ったり、花を生けたりして居心地良く過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋として落ち着けるよう、馴染みの家具を持ってきたり、家族の写真を飾ったりしている。直し込む癖のある人の部屋は生活感が乏しいが、カレンダーや絵を飾るなどして工夫をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 二豊会
(ユニット名)	グループホーム向日葵
所在地 (県・市町村名)	大分県国東市国見町竹田津3625番地
記入者名 (管理者)	加藤 真智子
記入日	平成 21年 1月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に理念をつくり、毎日のミーティングや毎月の職員会議等で介護の基本・運営理念に沿っての共有化を図っている。住み慣れた地域での安心した「安らぎ」のある暮らしができるように理念の柱に置いた。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念、「笑顔」「親切」「安らぎ」の、毎日の暮らしの中での実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族の面会時や病院の新聞等により地域の方に理解していただけるように、徐々ではあるが、取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域住民の一員として町内会班にも加入し、お接待の行事を行ったり、隣近所の方より野菜をいただいたり、また当グループホームが元保育園の跡地にて、度々、園児が訪問してくれている。これからも積極的に取り組んでいく。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	孤立することなく保育園児等の来訪が多く、また地元の人々と交流することには努めている。運動会等の地域活動にも体力的に無理なこともあるが、見物等の参加には努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域とは支え合う関係にありたいと思っているものの、支えて頂いているだけで、支えるまでは至っていないのが現状である。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>自己評価を全員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティング報告し、改善に向けて検討や実践につなげるように努める。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議では、「向日葵での生活の様子・毎月の職員会議録」等の報告を行うと共に、改善したい事を話し合い、意見をいただいている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>運営推進会議により、連絡をとってサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>成年後見人が必要なケースが今までなく、まだ、地域福祉権利擁護事業・成年後見人制度について学ぶことができていない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>新聞、テレビ報道等により、虐待の問題が上がった時、常時虐待防止に関する理解に取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項の説明(徳に、ご利用料金・他科受診時等)は十分行っている。また、その後も疑問点があれば伺い理解を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には常時、要望・苦情は伺っている。苦情を頂く事は改善につながるので、苦情を言いやすい雰囲気作りに努めている。伺った要望・苦情は直ちに、職員全員で検討し、結果は入居者様・ご家族様にお伝えし、改善に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「向日葵での生活の様子」で暮らしぶりをお知らせしたり、直接電話で話しをしてもらったりしている。受診した場合等は結果を報告している。金銭管理は金銭出納簿を明示し、コピーを送付している。尚、物品等の購入は、その都度電話でご家族に了解を得てから購入している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、苦情・要望等に対応する常設の窓口・担当者の設置を伝えている。面会時には常時、要望・苦情を伺うようにしている。常に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には、毎日の申し送りや、職員会議等、常に意見や提案を聞き、室の向上に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応が出来るようにシフトに入っていない為、利用者の状態の変化に応じた体制が取れるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご家族との信頼関係を築く為にも職員を固定化し、安心できるケアに心がけている。職員の異動時は必ず入居者様、ご家族様にきちんと紹介し、スムーズに移行できるように努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにアプローチしているが、まだまだ参加の機会が少ない。	○ 法人内の研修を受ける機会は持っているものの、法人外の研修を受ける機会がなかなか持ていない為、これから、研修の受講機会の確保にむけて努力したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療法人としてグループホームが2ユニットあり、常に連携をとっているが、他のグループホームへの見学や研修は交流が少ない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が短時間でも心身を休める休憩室がない為、休憩を取りにくい状況にある。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	回診もあり、週に一度は来訪しているが、業務や勤務状況、職員個々の把握は十分でないかもしれない。しかし、困りごと等は報告、相談するように指示されている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の相談時には必ずご本人の不安や困っていることを把握し、思いを受け止め安心して入居できる関係づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記23と同じく、入居希望の相談時には必ずご家族の不安や困っていることを把握し、思いを受け止め安心して入居できる関係づくりに努めている。「傾聴」を重んじている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> <p>地域包括支援センターや地域のケアマネージャー等と連携を取り合い、対応している。</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> <p>やむを得ず、直ぐに利用になった場合は、ご家族やそれまでにかかわった関係者にきてもらう等、ご本人が安心でき、納得いくように努める。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> <p>入居者様には「私達の人生の大先輩」として、尊敬の気持ちを持って接し、いろいろなことを教わっている。また、遠慮のない関係を築き、共に、笑ったり、共感したりして過してもらいたいと思っている。</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p> <p>ご家族との情報交換を常に行い、共にご本人を支援していくように努めている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p> <p>ご本人、ご家族の思いや状況を見極めながら、もっと良い関係が続くように、お互いの気持ちや思いが結びつくように努めている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> <p>昔からの知人が遊びに立ち寄ってくれたり、地域をドライブする等、関係が断ち切れないよう支援している。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p> <p>毎日のお茶時や洗濯物たたみ・耳垢とり・爪切り・花の苗植え等、みんなで笑いあひながら楽しく過せるように関わり合い、支え合えるように支援している。</p>	○	利用者間での大きなトラブルは発生していないが、小さいトラブルはあるので、そのような場合は両者をフォローしつつ、問題の解決に当たっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	サービスの利用が終了しても、遊びにきてもらう等、引き続きお付き合いが出来るようにこころがけ努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	毎日の関わり合いの中で話しかけ、表情や言葉で把握に努めている。また、意志疎通が困難な方には、ご家族からの情報を得て、本人本位に検討している。	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	ご家族の面会時や、ご本人より日々のお話の中で今までの生活歴や既往歴を伺い、把握に努めている。	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	掃除や、家事等、出来ることを手伝ってもらっている。心身の小さな変化も見落とすことがないよう心がけている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	ご家族の面会時や、ご本人より日々のお話の中で思いや、意見を伺い、ご本人がより良い暮らしが出来るように介護計画の作成に努めたいが、まだまだ十分とはいえない。	○ ご家族、ご本人、職員でチームとして意見を出し合い、ご本人のより良い暮らしの為の計画作成に努めたい。
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	なかなか期間・変化に応じての見直しが出来ていない。状態を把握し、ご本人に即した介護計画の見直しを行い作成に努めたい。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子・健康状態・食事摂取量・水分摂取量・排泄回数等をケア実施記録に記載し、職員全体での情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、入居者様にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置(週1回の回診)を受けながらの生活の継続を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察・消防・小学校・保育園・民生委員様等の協力を得ながらの支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用は少ないが、地域のサービス事業者との連携はとれている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に介護保険係担当者にも参加してもらい、情報交換や協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人にて、病院とは常時連絡が取れ、医療が受けられるようになっている。歯科についても、町内の歯科医院の協力を得て、適切な医療を受けられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療法人にて病院とは常時連絡が取れ、医療が受けられるようになっている。外科等についても大学病院より定期的にDrが来られ受診できる為に相談・支援ができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療法人にて、病院とは常時連絡が取れ医療が受けられるようになっている。24時間体制にて看護師がいるため、気軽に相談ができる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	最近の入院はないが、入院時は、ご本人が安心して過せるように支援情報を提供し、見舞うようにする。Drから回復状況・退院の情報を頂き、ご家族とも連絡をとりながら、速やかに退院支援を行う。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	毎週の回診時がある為、早い段階からDrに相談し、ご本人やご家族の意向を確認しながら、全員で話し合い、方針を共有し、支援につなげている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や週末期の方の入居は今までなかった為、まだ、取り組んでいないのが現状である。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所等に移られる場合は、プライバシーに配慮し、アセスメント・ケアプランや支援状況を渡すと共に情報交換を行い、住み替えによるダメージを最小限に防ぐことに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常時、申し送りや職員会議等により、一人ひとりの尊厳・プライバシーに配慮した対応の徹底を話し合い努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	レクリエーションや、行事への参加等は無理強いせずに、ご本人の気持ちを尊重した対応をとっている。	○ 共同生活の中で個別ケアが不十分とならないように取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位を頭の中において支援を行っている。ご本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個別ケアを目指している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に美容師さんに来訪してもらい、ヘアカットをしている。時々、ご家族と外出じにカットをしてくる方もいる。希望時は支援する。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を手伝っていただける方が少なくなってきたが、出来ることを手伝っていただくようにしている。テーブル・お盆拭き等は常に手伝っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、入居者は女性のみで、お酒、タバコを好む方はいないが、近隣の方が干し柿、甘酒、漬物等を持って来てくれたりする。そんな時は入居者の方も作り方等の会話で盛り上がっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけトイレでの排泄を促している。排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導によりトイレで排泄が出来るように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴予定を組んではいるが、希望があればご本人の希望に沿って入浴をしている。また、排便後の様子等を見て、入浴を実施している。入浴拒否される方には、無理強いせず、言葉のかけ方の工夫をしたり、タイミングをみて誘う等している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ゆっくり眠れるようにエアコン等の調整をこまめに行っている。どうしても眠れない方に対しては原因や生活リズムをもとにDrに相談して全体的な調整に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜を植えたり、刃物を研いでもらったり、職員と一緒に草むしりをしたりしている。法人内での行事に参加したり、ドライブする等して気分転換できるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さはわかるが、現在は、所持金は持たせていない。お金がなくなった等の問題で利用者同士のトラブルの発生を防ぎたい。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣を散歩したり、ドライブに出かけたりしている。法人内の行事にもできるだけ参加するようにしている。保育園の運動会や、お楽しみ会等にも出かけるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所への外出の支援は十分にはできていないと思う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等には電話で話せるようアプローチし、またご本人がゆっくり話せるように職員は席を外し、事務所を使用している。ご家族に用件のある時は電話をご本人にもかわり、元気な声を聞いてもらうように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるように、面会時間等の制限等は決めていない。居心地よく過ごせるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送りや職員会議を通して身体拘束の対象となる行為を理解し、身体拘束をしない為の支援に取り組んでいる。また、向精神薬は過剰に服用しないように取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵はかけないようにしているものの、内戸に鍵をかけることはある。徘徊者の方がおり、警察・消防等に捜索を御願したことがある為であるが、せめて日中は内戸の鍵をかけずに過せるように努めたい。ただ、他の入居者ご自分の居室に出入りすることに対して、苦情を申し出る入居者もあり、悩ましい部分もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人のプライバシーに配慮しながら、所在確認、様子の把握に努めている。特に夜間等は、1～3時間毎に巡視し、音等の異変を感じた時は直ぐに方質する等の安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具等は、一応職員側で保管している。使いたい時はいつでも使えるように対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデントレポートに関する報告・記録は整理・保存している。報告をもとに事故防止策を検討し、再度同じ事を繰り返さないように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療法人なので、母体病院に頼る体制となっている。	○	年1回は応急手当の勉強会を実施し、急変時に対応できるよう努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を行っている。また、水害時は母体病院に避難することになっている。台風時等は前もってわかるので、夜勤帯では夜勤者と管理者の2名で対応するようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	内戸の問題がある。抑圧感のない暮らしの支援に努めたい。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持病やアレルギー有無等の把握はできている。食物アレルギーの方には毎回食材に注意している。また、持病のある方は、常に顔色や様子に注意して変化を見落とさないようにしている。変化に気付いた時は申し送り等で情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により薬の内容の把握ができるようにしている。確実に服薬ができるように確認している。薬の処方が変更された場合等は、特に本人の状態変化を詳しくケア実施記録に記録し、Drに報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	クロレラ・牛乳・食材の工夫や、腹部のマッサージ・運動等を働きかけ、できるだけ自然な排便が出来るように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりに応じた歯磨きの手伝いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	不本意ながら、生活感の乏しい居室もある。入居者様の行動に対処しつつ、少しでも生活感を取り入れることが出来るよう、検討し対応したい。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		失敗や、理解しづらい行動等は増えつつあるが、入居者様同士の仲を取り持ちながら、フォローするようにしている。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		中庭で日向ぼっこできるようにしている。また、玄関脇に花壇があり、園芸の作業がしやすいようになっている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「笑顔」「親切」「安らぎ」の理念を基本にし、入居者の皆様が安心して暮らしていけるように取り組んでいる。